

205回ギャラリー展

## 時を刻む アンティーク時計展

平成26年5月19日  
～6月21日まで



三月から四月にかけての今年の季節感は消費税増税、長寿番組「笑っていいとも」の終了。消費税増税対策は我が家にとっては焼け石に水。物価だけ上昇して収入は増えず。財布のヒモはますます固くなるばかり。笑っていいとも終了の影響はいかほどか。タモリがはやらせた言葉「ネアカ」「ネクラ」は残っていくのだろうか。

六月十日は時の記念日  
第205回ギャラリー展は置き時計を15点展示いたします。

いつものように四月になり、ゴールデンウィーク、梅雨入り…。  
とどまることなく刻まれる時。 四月、五月、六月…。  
視覚で安心させてくれる一日の動き。正確に刻んでくれる時計。

時計は、明治5年(1872年)、これまでの太陰暦から太陽暦採用へ、時刻の表わし方も「定時法」に変わり、「何時」と云うことに決められました。

その後、技術の導入。近代時計産業が根づきました。

我が国の近代時計製造は、柱時計(ボンボン時計)の生産。懐中時計の生産と別々に発展しました。米国企業から機械設備を入れ、米国人技師の指導の下、いろいろな人々が時計工場を興し、掛時計、置き時計、懐中時計を作り始めました。

この時代の日本の時計産業は、手工業型(この頃米国では既に大量生産方式)ですが、日本人の器用さにより技術力が向上し、後の発展の牽引力となりました。

大正後期には腕時計も生産されるようになり、その後、日本時計産業は着実と発展してきたところ  
です。

今回は懐かしい、楽しいデザインのアンティーク置き時計を15点展示します。  
おたのしみください。